

## 人文学部社会科学の教員養成に対する理念・構想

人文学部社会科学は、校訓「三実」（「真実」・「実用」・「忠実」）という教育理念を踏まえ、活力ある市民社会の構築に寄与する自立的市民の養成を目的とする。そのために人文学部社会科学では、社会学理論系科目、社会調査系科目、地域・国際・環境系科目、メディア・現代社会系科目、社会福祉系科目、共通系科目を配置して、社会学の理論的・実践的知識ならびに社会調査の技術を修得させるとともに、4年間にわたる少人数ゼミで主体性やコミュニケーション能力を身につけさせることを目指す。

こうした人文学部社会科学の性格・目的から、教員養成にあたっては、「複雑で多様な現代社会を分析する知識と態度を身につけ、自立的市民に必要な知的能力や主体性を備えた教員を養成すること」を理念とし、中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の教員を養成する。

この理念を実現するための教員養成の構想として、各年次で以下のような科目を設定し、重層的な学びへとつなげていく。

1年次：社会学の概論的な授業科目をとおして、現代社会を読み解くための知識や態度の基礎を養う。また、教師論・教育原理・教育心理学といった教職に関する科目、および関連する共通教育科目を履修して、教職に求められる基礎的知識や態度を養う。

2年次：1年次の学修をふまえ、社会学の各論ならびに社会調査の方法・分析について詳細に学ぶことで、社会を省察できる知識や態度を修得する。また、地域社会や国際社会の理解や分析に必須である地理的・歴史的な知識の修得をうながし、生徒を指導するうえでの基本的視座を身につける。

3年次：2年次までの学修のもと、複雑で多様な社会の各分野で活躍する素養となる、社会学的想像力と社会分析能力を修得する。また、現代社会の多様な社会問題について、社会学の理論や社会調査方法を駆使し、解明しようとする態度と主体性を身につける。教職に関する科目において、学校における教育問題を把握することで、その問題究明に対する意欲と態度を身につけ、教育実習に必要な実践的指導力を高める。

4年次：3年次までに培った学修をもとに教育実習を行う。学校教員としての自覚と使命を再確認すると同時に、自己の課題を見つめ直し、不足している知識や技能等を補う。

以上の理念・構想から、「社会を読み解くための専門的知識や分析手法を修得し、生徒の社会的関心や意欲を高めるために主体的に学び続ける教員」を人文学部社会科学の目指す教員像とする。

## 人文学部社会学科に教職課程を設置する趣旨

### ○中学校教諭一種免許課程（社会）の設置趣旨

人文学部社会学科は、複雑で多様な現代社会を分析する知識と態度を身につけ、自立的市民に必要な知的能力や主体性を備えた社会科教員を養成することを理念とする。

現代社会において、自立的市民に必要な知的能力や主体性は、誰にとっても必要な能力・態度である。中学校学習指導要領（社会）には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫り解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」と、その目標が掲げられている。人文学部社会学科では、社会学に関する理論的・実践的知識、ならびに社会調査の技術を修得することを目指しており、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察」することを目指す社会科教育に寄与する教員を輩出できる。

以上のように、社会学という学問をつうじて、複雑で多様な現代社会への対応力を育成する人文学部社会学科では、公民的資質の基礎の育成をめざす社会科教員の養成に貢献できるのであり、中学校社会の免許課程を設置する意義がある。

### ○高等学校教諭一種免許課程（地理歴史）の設置趣旨

人文学部社会学科は、複雑で多様な現代社会を分析する知識と態度を身につけ、自立的市民に必要な知的能力や主体性を備えた地理歴史科教員を養成することを理念とする。

現代社会において、自立的市民に必要な知的能力や主体性は、誰にとっても必要な能力・態度であり、社会を分析する理論や実践の素養を身につけることも不可欠である。高等学校学習指導要領（地理歴史）の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫り解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す」と示されている。人文学部社会学科では、社会学の専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、専門教育科目として、社会学理論系科目や社会調査系科目、地域・国際・環境系科目、メディア・現代社会系科目、社会福祉系科目、共通系科目を配置している。そうした体系的な科目配置により、社会学的想像力や社会分析能力の修得をうながしている。そしてそのなかで、地域社会や国際社会を多角的に分析するため、地誌的・地政学的、および歴史的な観点からの学びを確保している。

このように、人文学部社会学科の教育課程においては、地理的・歴史的な多角的思考力・分析力を修得し、国際社会に主体的に生きる日本国民として必要な自覚と資質を養うことで、高校教育における地理歴史科の目標達成に資する教員を養成することができる。以上のことが、人文学部社会学科に「地理歴史」の免許課程を設置する意義である。

### ○高等学校教諭一種免許課程（公民）の設置趣旨

人文学部社会学科は、複雑で多様な現代社会を分析する知識と態度を身につけ、自立的市民に必要な知的能力や主体性を備えた公民科教員を養成することを理念とする。

現代社会において、自立的市民に必要な知的能力や主体性は、誰にとっても必要な能力・態度であり、社会を分析する理論や実践の素養を身につけることも不可欠である。高等学校学習指導要領（公民）の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を迫

及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す」とある。人文学部社会学科では、社会学に関する理論的・実践的知識のほか、現代社会の多様な社会問題を徹底した社会調査で解明するための能力を培い、自立的市民の育成を図っている。こうした専門知識や分析能力を身につけ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断する力を備えた教員を養成し、公民科教育に貢献する。

以上のように、人文学部社会学科では、高校教育において生徒の公民的資質の育成に貢献する教員を育成するために、「公民」の免許課程を設置する。